

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホーム みどりの里 (東ユニット)		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市40地割22-2		
自己評価作成日	令和6年7月15日	評価結果市町村受理日	令和6年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhvou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・委員会活動に力を入れている。職員全員がいずれかの委員会に所属し、自分たちの委員会が対応すべき課題や改善点について随時話し合いの場を設けて話し合った内容を記録に残し、誰でも閲覧できるようにしている。年間研修スケジュールにそって、各委員会が資料を作成して職員全員で学びを深めている。職員は研修会ごとに「学んだこと」「これからどのように活かせるか」を報告書として提出している。月1回の定例会を開催し職員がほぼ全員出席して、意見交換の場としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境に恵まれた事業所では、管理者と職員が随時、話し合い、知恵を出しながら課題を解決する仕組みがあり、利用者や家族の信頼、安心な生活に結びついている。また、様々な委員会を組織し、職員それぞれが委員としての役割を担い、モチベーションの確保や介護業務の自信に繋がっている。コロナ禍で花見や紅葉狩り、近くの道の駅へのドライブなどの外出の機会が途切れ、コロナ禍が落ち着いた現在では車いす利用者が多いことなどから外出が難しくなっているものの、天気の良い日に園庭や周辺で外気浴を心掛けるなどの工夫を凝らしている。昨年7月に開催した「みどりカフェ」では、直接家族と利用者が触れ合うことができ大変好評であり、今後の開催、展開が期待される。地域に欠かすことのできない事業所として信頼も厚く、今後も運営推進会議を中心に地域の声を聴きながら介護ケアの一層の向上が期待される。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年8月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (東ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関、職員休憩室に理念を掲示し、職員が常に確認・意識できるようにしている。毎月行われる定例会においても日々の提供しているサービスが理念に沿ったものかを確認している。	事業所立ち上げの際、管理者が職員とともに作成した理念「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」は、職員の業務の基礎として意識され、介護プラン作成やカンファレンスでの振り返りに反映されるなど、利用者の安心感、家族の信頼に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、募金活動に協力している。感染症対策のため、近隣小学校、中学校との交流は控えている。毎月届く広報誌の中に懐かしい名前をみて懐かしんでいる。運営推進会議にはメンバーの中に地域の住民も参加して、地域での情報も教えて頂く機会となっている。	町内会に加入し募金活動への協力などは行っているものの、小中学校の運動会や学習発表会などの案内は今でも控えられ、再開も未定である。地域の敬老会の参加も見合わせており、お祝いの品が別途届けられる状況にある。このような中、運営推進会議に地域の方々を複数名委員として参加していただき、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長期入居の申し込みに来られた方が認知症になった家族に戸惑い悩んでいる話を傾聴している。認知症ケアの方法などアドバイスすることもある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定期開催し、施設状況の報告や意見交換、町内の他の施設での同行などの情報交換、アドバイスを受ける機会となっている。利用者のご家族もメンバーになっており、利用者も一緒に会議に参加されることもある。	コロナ禍のため書面会議の時期もあったが、現在は参集形式で開催している。管理者は、地域住民や家族からの意見など、重要と思われることについては、職員に伝達し共有してサービスの向上に活かしている。最近の会議では、認知症カフェ(「みどりのカフェタイム」)が好評で、今後も定期的開催してもらいたいとの意見をいただいている。	委員会の協議内容を議事録としてまとめ、職員間で共有し、課題の把握や業務の改善等に、より一層取り組むことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席していただき、情報やアドバイスをいただいている。 施設待機者数の情報のやり取りも行っている。	運営推進会議メンバーの地域包括支援センターの職員を通じ、福祉課や保健センターとの連携が図られている。町からはメールによる情報提供が多くなっているが、必要に応じて電話で直接町に相談し、助言を得ている。また、成年後見、生活保護、日常生活自立支援事業の活用に当たっては、町や関係機関と連携した協力関係が築かれている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が主体となって身体拘束廃止のマニュアルを整備し、全職員に配布している。委員会の勉強会や定例会議で個々のケアが身体拘束に抵触していないかどうかを検証している。門、玄関の施錠は19時に行い、翌日5時に解錠している。防犯上の理由から施錠を行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヵ月ごとに開催し、職員4名が参加している。身体拘束廃止のためのマニュアルを再読するなどの研修に努めている。前回行ったスピーチロック「ちょっと待って」について、次回の委員会までに報告書を取りまとめる予定である。利用者の安全のため窓の二重ロックや赤外線センサーの利用があるが、介護ロボットはエラーが多く、現在は使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のため、施設内での勉強会を定期的に開催し「権利擁護・虐待」について学んでいる。入浴の際には全身観察し、不審なあざや傷がないかを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業1名利用、成年後見制度1名利用中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭にて説明を行い、専門用語を使わずに分かりやすい言葉で丁寧な説明を心掛けている。改定などの際は文書で連絡し、更に電話で不明な点・疑問点がないかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は、面会で来所された時や病院受診時に伺うことが多い。ケアプランの更新時にご家族と面談の時間を設けてご意見や要望を伺っている。	介護プランの説明時、通院時などには、できるだけ家族の意見を伺うようにし、家族とのつながりを大切にしている。家族からは、感謝の言葉が多い。「みどりのカフェタイム」を開催し、利用者の家族13名が参加し、利用者との面会、触れ合いを行なったほか、要望等を伺い、介護サービスに反映させている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の対面での定例会議やカンファレンス、ミーティングノート等で意見・提案を出しやすい機会を設けている。各ユニットに、介護リーダー、副リーダーを配置し、職員が話しやすい環境を整えるように配慮している。	職員との個人面談は行っていないが、日常的に管理者に申し出があり、業務の提案も出されている。手すりの設置や職員が使う冷蔵庫の確保などは、提案により実現されたものである。また、日常的な課題について、現場で知恵を出し合い、話し合って判断し、柔軟に対応する仕組みがあり、事業所としての大きな強みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、働き方アンケートを実施し職員が個々にスキルアップのために行っていることや、業務上で力を入れていることなどの把握に努めている。資格手当・夜勤手当・休日手当・昇給・賞与の支給に努め、介護職員処遇改善加算、特定処遇改善加算を特別手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修への参加や、法人内研修の開催で外部から講師を招き学ぶ機会を設けている。又、当施設職員で構成されている各委員会主催の勉強会を毎月開催し、自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に加入し、外部研修や地域会議で同業者との交流がある。現場での困難な事例についても参考意見をもらう等、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者がご本人から心配事、要望などを話しやすい雰囲気作りを心掛けている。日常生活の中や面談の中での対話を積み重ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談や電話などで、不安な事や困っている事などを伺っている。入居後は出来るだけ多くの機会に利用者の生活状況を伝え、何かあればその都度電話にて相談している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がアセスメントを実施し、ご本人と家族が困っていることを明確にし、ご本人に必要な支援を居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの担当者とも連携しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、地域の行事、伝統料理、生活の知恵等を教えて頂く事も多い。着物や洋服の仕立てを職業にされていた利用者には、裾上げや繕い物をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時には電話で相談したり、面会や病院受診などの際に、自宅で生活していた時の様子を教えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の高齢化で馴染みの店や床屋に通うことは難しくなっている。地区の演芸会のDVDを鑑賞したり、町の広報誌をみるなどして、地区の行事などを感じている。テレビ番組で町関係の特集があった際には録画して、観て頂いている。	近隣のデイサービスの利用者に馴染みの方がいて交流したり、件数は多くないが、知人友人との面会の機会もある。毎日パン食にしたい方、タバコを嗜む方、カタログを詳細に見る方など、様々なこだわりがあり、一人一人の利用者の馴染みを活かすように努めている。地域を特集したテレビ番組を録画して再生し、馴染みの継続として効果的に使われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を性格や相性で調整している。孤立しがちな利用者には職員が間に入り、他の利用者との関わりが持てる様にお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったり入院などで退居された際には、担当のケアマネージャーや医療関係者に当施設での生活状況や介護情報を提供している。また、ご家族やご本人からの相談には随時対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からお話を伺ったり、それが困難な方には生活の状況を観察して職員間で情報共有し、提供したサービスを定期的に検証している。日々の生活の中で職員と一対一で向き合える時間を設け、ご本人の思いをくみ取れるように心掛けている。	本人の思いを伺ったり、様子を伺いながら、縫物が得意な方にエプロン繕いをお願いしたり、洗濯物たたみやメモ用紙づくりなど、利用者のできることをやってもらうように心掛けている。利用者の状況を見ながら組み合わせの相性にも配慮して、楽しみながらできることを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階でご本人・ご家族からお話を伺ったり、担当ケアマネージャーから情報提供してもらっている。入居後は、コミュニケーションの中でご本人の言葉、仕草、表情から推測しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の業務引継ぎで、利用者の体調面、食事量、排便の有無、エピソードなどを確認している。利用者一人ひとりの得意な事を職員が把握できおり、日中活動に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族に意向を確認し、計画作成担当者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。利用者全員分のカンファレンスを毎月行い、必要に応じてモニタリング、プランの見直しを行っている。	短期3ヵ月、長期6ヵ月で計画を見直している。主に2名の計画作成担当者が、理念を念頭にモニタリングを行い、主治医の意見等を取り入れてベースとなる素案を作り、居室担当者から日中の話を聞き、確認・修正したうえで原案として家族に説明している。家族からの意見は多くない。家族の了解を得てプランの実施に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子は個別に記録されている。日勤者と夜勤者間で情報共有し、体調面での変化や気づきについても記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の利用者の通院の際には、施設のリフト車で送迎を行っている。髪を切って欲しいと利用者から要望があった際には、職員が散髪を行い大変喜んで頂いている。定期的に「耳垢」掃除に通うご家族にも対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (東ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回実施する避難訓練では、地域の住民の方にも参加いただき利用者が安全に避難することができるようにご協力頂いている。近所の建設会社からは除雪作業を手伝って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院へ通院している。多くの利用者は、地元の国保種市病院をかかりつけ医としている。職員が受診に立ち合い、受診結果をファイルに記入し職員全員で健康面での情報を共有している。歯科往診も随時依頼し、義歯の不具合やかみ合わせの調整を診て頂いている。	多くの利用者が地元の方であり、協力医(国保種市病院)が元々のかかりつけ医となっている。通院は原則的に家族にお願いするが、車いす利用ということもあり、職員が通院支援を行うことも多い。通院に当たっては、日常の様子を「通院申し送り表」として伝えるなど、医療機関との確りとした連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内のデイサービス看護師に相談し、アドバイスを受けられる体制が整っている。緊急時には協力医療機関へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍以前は、入院時には出来るだけ病院を訪ね、医師、看護師に治療状況を伺う等して情報収集を行っていた。現在は病院や家族と電話での情報のやり取りになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看護師が配置されていない為、痰吸引、経管栄養などの医療行為は行えないことを丁寧に説明し、了解を得ている。重症化が見られた場合には、かかりつけ医や町内の他施設と相談し、より良い支援を検討するようにしている。	事業所での看取りの経験は無い。入居時に重度化した場合の対応について、家族に説明し了承を得ている。重度化した場合は、改めて家族の意向を伺い、医師の指示のもとで対応している。これまでも緊急時対応についての職員研修を行っていたが、重度化に特定した研修を行っていませんでしたので、勉強会に取り入れることも検討課題の一つとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の緊急時対応マニュアルがあり、緊急時にはマニュアルに沿って対応する。施設にAEDを設置し緊急時に備えている。AEDの使い方についても定期的に確認している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり、職員は年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を消防署の指導を頂き実施している。運営推進会議委員による避難者の見守り支援の協力も受けている。ハザードマップを活用し、避難経路、避難場所の確認も行っている。災害BCPも整備し災害時に備え、研修も実施している。	年2回の総合訓練を実施しており、今年は3月に消防署の立会いの下で実施している。消防署からは、前回、避難口を複数にすることを指導されており、今回はそのように改善したことを評価された。また、歩行器の利用者を車椅子にすることなどの助言をいただいております。次回は夜間想定での訓練を行う予定である。訓練の際には、地域の方に避難後の利用者の見守りをお願いしている。食料の備蓄、発電機、反射式ストーブなど必要な備えは確保している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話や申し送りの際には、利用者の耳に入らないように配慮している。入浴や排泄介助などの際には誇りや自尊心を損ねる事がない様に利用者の心に届くような言葉がけや対応を心がけている。	利用者を人生の経験者として尊敬し、一人一人の個性と生活を大切にしている。特に、屋号や前歴、経験などに配慮し、呼びかけを工夫している。入浴や排泄の介助に当たっては、誇りや自尊心を損ねないような配慮が職員全員に浸透しており、不快な状況になることはない。個人情報 は書庫で保管し、パソコン情報はパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の気持ちを話しやすい状況や場所などに配慮している。個々に向き合える時間を設け、毎日の生活で困っている事ややってみたい事などを伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間などの基本的な生活時間は概ね決まっているが、その時の利用者の体調や気持ちを大切に、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服選びをお手伝いしたり、希望者には職員が散髪を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (東ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や調理を行うことは難しくなっているが、調理の音や匂いで今日の献立について職員と話が弾んでいる。ミキサー食で介助を受けて食事を摂る利用者が7名いるが副菜や味噌汁の具材を説明しながら一口一口提供している。	食材は、地元で確保し、メニューは委員会が作成している。調理は職員とパートの調理担当が行っている。介護度が進み、お手伝いは下膳程度である。家族からは、メロン、スイカ、サクランボなどの差し入れがある。通院の際に、家族と外食する利用者もいる。郷土料理のせんべい汁、行事食のチラシずし、誕生会のうどん、弁当など、利用者の好みに合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の行動表で食事量や水分量を把握している。咀嚼力、嚥下力、その日の健康状態に合わせた食事形態で提供している。食事が十分に摂れない方には補食などで対応している。水分を摂ることが苦手な利用者にはトロミ剤を使用してスプーンで食べる状態にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを勧めている。一人では歯磨きが十分に行えない利用者には、仕上げ磨きを行っている。必要に応じて歯科往診を依頼し、義歯の不具合を調整、修理して頂き、口腔内環境を整えて食事がとれるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方にあったタイミングで声掛けしてトイレに案内している。利用者に合わせた介助や見守りを行っている。現在、リハビリパンツの方10名、オムツ使用の方7名となっている。布パンツ使用者は現在はいない。	事業所内には車いす対応のトイレが4か所あり、一斉に声をかけるのではなく、チェック表を確認しながら、様子を見て個別の声掛け、誘導となっている。介護度の高い利用者が多く、おむつや夜間のポータブルトイレの使用割合が増えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品、食物繊維の多い食品を取り入れた献立づくりを心掛けている。毎日の軽体操や余暇時間で無理のない範囲で体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	週2回の入浴を基本として、職員が声掛けや入浴介助を行っている。その日の体調や病院受診などに合わせて柔軟に対応している。「お風呂」と聞くと「今日は入らなくていいわ」とお話しされる利用者には、浴室隣のトイレに案内してその流れで脱衣所までお連れする。「今日は体重測定でした」と声掛けしたりと利用者が入りたくするような声掛けやタイミングを工夫している。	週2回、ほぼ毎日、数名ずつ入浴している。車椅子利用者が多いことから、リフト付きのバスタブを活用している。菖蒲やアヒルを浮かべるなど、入浴のきっかけにしたり、入浴を楽しんでもらう工夫がある。浴室が職員とのコミュニケーションの場となっており、入浴後に職員の記録記載量も増えている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なリネン交換やベッドメイキングで、気持ちよく休むことが出来る環境を整えている。夜間、寝付けられない方にはホールに案内して水分補給を勧めたり、職員がお話を伺ったりと個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のお薬情報についてユニットごとにファイルにまとめられている。薬の目的、副作用、留意点などの医師、薬剤師からの情報をファイルにまとめ職員全員がいつでも確認できるようにしている。配薬から服薬までに5段階で確認者がおり確実に服薬できる工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、テーブル拭き等、それぞれが得意な事、出来ることを手伝っていただいている。縫物が得意な利用者には繕い物や裾上げをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子利用者が11名、歩行器を使用している利用者が3名となっているため、気軽に出かけることがなかなか難しい状況である。園庭に出て外気浴を行う、畑の作物の成長を観察しながらおやつを食べるなど、施設内で気分転換が図れるように努めている。また、病院受診などで外出した際には、スーパーで買い物をする機会も設けている。	コロナ禍以前は、花見、紅葉狩り、道の駅へのドライブなどが日常的に行われていたが、現在はコロナ禍が落ち着いたものの、車いす利用者が多く移動手段の確保が困難で、外出の機会が少なくなっている。リフト付き車両の確保など検討課題が多い。天気の良い日には園庭でおやつやコーヒーを楽しみ、近くのデイサービス職員、利用者との交流もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布や現金を管理している利用者はいない。病院受診の際に売店やスーパーに立ち寄り、買い物の機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話や手紙を書くことは難しくなっている。ご家族からの電話は随時取次ぎを行っている。ご家族からの季節の絵はがきや写真入りのはがきを部屋に飾りいつでも目にすることが出来るようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム みどりの里（東ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行き届いた清潔な空間を心掛けている。レクリエーション委員会が率先し、壁に季節を感じられる飾りつけを行っている。ご家族から、母の日や誕生日に花が届けられると「きれいだこと」「お花があるといいね」と季節を感じながら話が弾んでいる。	日中を過ごすことの多い食堂兼居間にはテーブルと椅子、テレビなどが配置され、エアコン、床暖房、扇風機や加湿器などによって快適な空間が確保されている。壁面には季節やイベント毎の飾り付けが施され、清掃も行き届いて居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置の仕方、テレビを集中して見たい方、お話が好きな方同士、静かに過ごしたい方とそれぞれが快適に過ごすことが出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのものやご家族の写真を持ってきてもらうように声をかけている。各居室の担当職員が定期的に整理整頓を行い、清潔で居心地の良い空間を提供できるように努めている。	居室にはベッドとタンスが常備されており、ベッドなど利用者の意向に沿って配置されている。入居の際、家族の写真、衣装ケースやテレビ、椅子、冷蔵庫など馴染みのものが持ち込まれている。居室担当の職員が定期的に清掃や整理整頓を支援しており、安心できる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かりやすいようにトイレや浴室などに大きな文字で案内板を掲示している。また、各居室には離れた場所からもご自分の部屋が分かるように大きく名前を表示している。居室からホールへ続く廊下には手すりが設置され安全に移動できる環境を整えている。居室内のレイアウトは、利用者の身体状況や休む姿勢を考慮している。		